

トピックス

トヨタプリウスPHV 新技術がめじろおし エアコンガスにはHFO-1234yf 採用か

今冬発表予定のトヨタ新型プリウスPHV(プラグインハイブリッド)

PHVはあくまでEV(電気自動車)走行をベースにエンジンがサポートするという思想の車なので、FCV(燃料電池車)が普及するまでの実質的な次世代環境対応車輛の柱になると言われています。さて、この車他にも新技術が多く採用されているようです。たとえば・・・

「ソーラー充電パネル(オプション)」ルーフに180W出力の大型のソーラーパネルを搭載。駆動用バッテリーや走行中には12Vバッテリーへの充電を行うことが可能。とか、

「ヒートポンプオートエアコン」世界発のガスインジェクション方式のヒートポンプ採用により、低温時でもエンジン駆動せずにルームヒーターを長時間稼働させることが可能。

などなど、新技術が話題ですが、補修業界にとってのエポックメイキングはやはり、

「バックドアにCFRP(カーボンファイバー)採用!と「エアコンガスにはHFO-1234yfを採用か?」でしょう。

尚、この新エアコンガスHFO-1234yfについては、近々特集記事を組む予定です。



写真/トヨタHPより転載

技術情報

クリヤーのなじみが悪いなあ・・・ そんな時はライトスケールの使用方法を再度ご確認ください!

計量調色や硬化剤・シンナー配合にかかせないライトスケールですが、今一度使用方法をご確認いただきたい点があります。

それは調色済塗料やブラサフ、クリヤーなどに「硬化剤」と「シンナー」を**続けて配合する際のボタン操作方法**です。

主剤に対して硬化剤を入れる場合、主剤の重量を「必要重量/現重量」ボタンを押してセットする必要があります。規定の配合比率を入力し「硬化剤/シンナー」ボタンを押し、表示された数値の分だけ硬化剤を配合します。ここまではまず大丈夫です。

続けてシンナーを配合するのですが、ここで再度必要な「必要重量/現重量」ボタンを押していないケースが見受けられます。

そうすると必要比率のシンナーの数値を入力し「硬化剤/シンナー」ボタンだけを押してしまうことになり、これでは主剤だけに対しての比率表示となってしまう、シンナーの量が適正值より不足してしまいます。

(例) 配合比率 2:1のクリヤーにシンナーを20%配合するケース (仮にクリヤーの主剤量は1000gとします)

《 正しい配合操作 》 (あらかじめ容器の重さは風袋0で設定)

クリヤー1000gを容器に入れて、「必要重量/現重量」ボタン→「5」「0」「硬化剤/シンナー」ボタン→500g 硬化剤配合

つづけて「必要重量/現重量」ボタン→「2」「0」「硬化剤/シンナー」ボタン

そうすると**主剤+硬化剤分の1500gに対しての20%でシンナーは300g 配合の指示**になります。

《 誤った配合操作 》

クリヤー1000gを容器に入れて、「必要重量/現重量」ボタン→「5」「0」「硬化剤/シンナー」ボタン→500g 硬化剤配合

そのままつづけて「2」「0」「硬化剤/シンナー」ボタン これでは主剤1000gに対しての20%でシンナーは200g 配合の指示になり、適正量より100gも少ない結果となってしまう。

カタログや塗装仕様書に記載の推奨シンナー配合比率は「主剤+硬化剤」の量に対しての比率ですので、シンナー比率を入力する前(硬化剤を入れ終わった後)に必ず「必要重量/現重量」ボタンを押すことを再度ご確認ください。

このように、硬化剤の配合比率の高い塗料ほど誤使用の影響を受けやすくなります(10:1だと数値上の差が少ないため)

特に夏場や冬場など気温の影響を受けやすい時期は、このシンナーの量の違いが塗装結果に顕著に現れますので、是非再度ライトスケールの使用方法をご確認いただきますようお願いいたします。

尚、上記ボタン表示は現行機種「ライトスケールRoute」と「ライトスケールSPⅡ」のもので、旧式のライトスケールでは機種によりボタン表示が異なりますので、機種毎の使用説明書を良くお読みのうえ、ご使用ください。

(例えばライトスケールSP、テクノスケールは「必要重量セット」のボタン表示です)

また「ライトスケールⅣ」や「ライトスケールⅤ」以前の古いモデルでは「現重量表示」と「必要重量セット」ボタンが分かれており両方を順番に操作しないと正しく機能しませんのでご注意ください(「現重量表示」→「必要重量セット」の順)